

『多変量解析 (データサイエンス大系)』

(松井秀俊 著, 学術図書出版社)

正誤表 第 1 版 第 1 刷 用

頁	場所	誤	正
90	下 3 行目	とおりである.	とおりである. ただし, ここでは非スパムを陽性, スпамを陰性とした.
97	5-2	表 5.2 の混同行列の結果から, 2 群分類に対する正解率, 誤分類率, 適合率, 再現率, 特異度を計算せよ.	表 5.5 の混同行列の結果から, 偽陽性率, 偽陰性率, F 値 を求めよ.
	5-3	2 次判別, カーネル判別 による	2 次判別による
	5-4	※問題を以下に差し替えてください. [R 使用] ソースコード 5.1 の x_1, x_2 に対して, 次のプログラムを実行することでそれぞれの標本平均, 標本不偏分散共分散行列を計算できる.	
		<pre> 1 ma = apply(x1, 2, mean) # x1の標本平均ベクトル 2 mb = apply(x2, 2, mean) # x2の標本平均ベクトル 3 Sa = var(x1) # x1の標本不偏分散共分散行列 4 Sb = var(x2) # x2の標本不偏分散共分散行列 </pre>	
		このことを利用して, がく片の長さが 5.5, がく片の幅が 3.0 の観測値に対してフィッシャーの線形判別関数 (5.9) 式の値を R で計算せよ.	
100	4 行目	異なり る .	異なる.
101	下 4 行目	マハラノビス距離によるは,	マハラノビス距離による 分類 は,
129	下 2 行目	章末問題 7-6	章末問題 7-5
131	7-4	章末問題 6-3	章末問題 6-4
160	8-3	UScities	UScities D
186	9-3	リーグや年報などの情報	リーグや 年俵 などの情報
208	10-3	[R 使用]	(本問では R は使用しません)
224	表 11.5	分割表の元となるデータ	分割表を 書き換えた データ

※問題を以下に差し替えてください。

11.4.3 項で扱った Bollen データの潜在変数および観測変数を RAM (11.15) 式に対応させたものを, $\mathbf{f} = (f_1, f_2, f_3)^\top$, $\mathbf{X} = (x_1, x_2, x_3, y_1, y_2, y_3, y_4, y_5, y_6, y_7, y_8)$ とする. このとき, 図 11.6 に示すパス図および `sem` 関数の出力結果から, 観測変数ベクトル \mathbf{X} に対する観測変数ベクトル \mathbf{f} の係数からなる行列 A_b の要素を記せ.

誤りではないが, わかりやすくするための修正

頁	場所	変更前	変更後
91	2, 3, 5 行目	適合率	精度
	3, 7 行目	再現率	感度
131	7-4		ヒントを追加する. [ヒント: 予測結果の出力には <code>predict</code> 関数を使用し, その引数に <code>type="class"</code> を追加する.]